

2021年度 近森病院附属看護学校 自己評価・学校関係者評価

1. 学校関係者評価 総評

本評価の対象となる令和2年度(2020年度)は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大にともない、本学の教育、研究活動が大幅に制限された。しかしながら、オンラインの活用や適切な感染対策により、一定の授業効果を上げ、卒業生の国家試験合格率が100%になった。これは卒業生の努力はもちろんのこと、教職員による教育支援の賜物と評価される。本評価全体としては、すべての項目において9割以上の評定であり、本学が専門職学位課程として適切な教育、研究、運営を行っていることがわかる。一部、「教育目標」の自己評価や「教授学習評価過程」「卒業・就職・進学」の学校関係者評価が相対的にやや低い評定になっている。しかし、これは実施に不備があるわけではなく、それを証明するデータが十分でない場合や、次年度以降の実施について変更や見直しを検討した項目であり、教育の質は十分に保たれている。本評価を行った令和3年(2021年)もコロナ禍が十分には収束していないが、現在の2021年度そして2022年度以降も引き続き教育の質の保証に努めることを期待する。

2. 自己評価 総評

令和2年度(2020年度)の自己点検・自己評価は、前回の学校関係者評価の課題をもとに改善に取り組み157項目の自己評価を行った。前年度に引き続き大項目においておおむね実施できていることを確認した。中でも、教育課程経営2項目、経営・管理過程3項目、入学広報活動1項目、卒業・就職・進学2項目は3から4へと改善された。基本的に教育課程は指定規則どおりに実施されており、高知県下へ保健医療に貢献できる看護師育成の基盤確立が進んでいると考えられる。また、新型コロナウイルスの影響を受け、制限された活動もあったが、オンライン授業の実施や学内演習など柔軟に取り組むことができ、今後のICTを活用した教育方法の開発の機会ともなっている。

2022年度より改正される新カリキュラムでは、地域のニーズに応える看護師の育成が看護基礎教育に求められている。当校においても、教育理念、教育目的、教育目標および、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーをさらに連動させ、教育の質が担保できるよう検証する仕組みづくりと実践を、長期的かつ段階的に取り組むことが今後の課題となる。

3.各項目評価

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
1.教育目的	3.85	<p>教育理念・教育目的は看護学校養成所指定規則に沿った内容であり整合性がある。また、本校の求める学生像やカリキュラムの考え方等においても3つのポリシーで明確に示している。教育理念、教育目的・目標と3つのポリシーを元にカリキュラムを構成しており、教員の具体的な教育活動の基盤となりシラバスとも連動し、教育活動の指針となっている。新カリキュラム構築の検討会を開催するたびに、教員に3つのポリシーや教育目的・目標等を説明している。今後はさらに、これらを連動させ教育内容、評価に反映させてゆくことが課題である。</p>	3.85	<p>全体としては関係規則に沿った理念や目的が立てられており、ディプロマポリシーに沿って科目のねらいや目標・授業構成が組み立てられている。ただ、実際には教員間での認識の格差から授業とディプロマポリシーやカリキュラムポリシーなどをうまく関連させた授業構成ができていない部分があり、学内のカリキュラム検討委員会に全教員が出席して理解を深める作業をしている。また、教育目標などを、学生が認識できていない事例が実際にあったとのことであり、これらの点は今後の課題である。</p>
2.教育目標	3.63	<p>教育理念、教育目的・目標、ディプロマポリシーに明示している人物像と教育する具体的なカリキュラムやシラバス等との間は一貫しており、シラバスには教員の工夫した跡がみえる。現在は、新カリキュラムでのディプロマポリシーに示す人材像を念頭に具体的な教育の工夫や教育方法の開発に努めている。卒業後の継続教育の重要性については、重要性は認識しているが、今年度は卒業後の進路先から情報の収集を行っている段階であり、具体的な継続教育については検討中である。</p>	3.88	<p>教育目標やその内容について、自己評価は低くなっているが、十分に実施できているものとする。自信をもって高く評価していただきたい。卒業後の就職先との連携に関しては、附属病院との関係性がない限り、どの学校でも同様の状況ではないかと思われる。提案として、担当教員をひとつの病院との窓口にして、その担当教員と病院窓口の看護師との信頼関係を強化して、卒業した学生の支援や学校の強み弱みを分析する方法、また、早期に就職が決まった病院との連携などを強化していく、病院の新人看護師に求めるものと学校の卒業時の到達度を話し合う時間をもつなど、今後の工夫を期待したい。</p>

評価項目	自己評価 評価点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評価点	学校関係者評価・意見
3.教育課程 経営	3.88	<p>また、当校の教育理念に沿って授業計画や行事計画を立案しており、当校の教育目標達成のため教職員は一貫した活動を行っている。</p> <p>当校の理念のもと教育活動を行っており、学則・細則・履修規定・教育理念・当校の3つのポリシーなど学習の手引きにのせており教職員はいつでも確認できる。当校のポリシーに沿って入学時より卒業まで学生の学びに応じた教育を心がけている。</p> <p>科目・単元構成は厚生労働省より提示された看護師指定規則に準じ3年課程の看護基礎教育の考え方を基本とし、学生の成長に応じた科目の配置を行っている。当校は母体病院が急性期から在宅までの医療の提供、チーム医療などを推進しており科目にも急性期看護、リハビリテーション、チーム医療などの科目構成をしており母体の病院の講師が講義を行っている。倫理規定に関しては2020年度に新たに作成した。教員全員での学習会を開催し、学会参加や研修などの必要経費は年間教育計画の中で整えられている。看護研究への取り組みなど教員のグループで行っている。2020年度は教員と実習指導者の役割を見直し、教務会議で教員に説明を行った。今後は実践・評価を行うことが課題となっている。開校時より蓄積していたインシデントレポートを2020年度は集計をおこなった。今後分析を行う。学生にはインシデントレポートを参考とし指導を行っている。</p>	3.93	<p>学校の3つのポリシーに準拠し、教職員は一貫した教育目標達成のための活動をしている。カリキュラム委員会で、自己評価、問題提起できている。入学から、卒業までの管理を行っている。学生の成長に応じた科目の配置の上に、母体の急性期病院との連携で、up-to-dateの知識を病院講師より知識を得ている。</p> <p>学習の手引きで、授業構成を説明されている。コロナ禍の中での授業の遅れをWEB配信によって補っているが、IT環境において、必ずしも適切な学習環境を整えているといえない部分もある。</p> <p>教育課程は看護師指定規則に則り適切と思われる。自己評価も委員会できちんと評価されている。</p> <p>近森会の附属看護学校であることから、マンパワーや教育に関する環境などは、充足していると考えられる。しかしながら、自己評価にもあるように近森病院にない診療科、すなわち母性看護小児科看護においては、人材に苦勞されることが推測される。院外留学や院外交流などのシステムの構築ができればよいと思う。今後の工夫を期待する。</p> <p>臨地実習指導者と教員の協働体制を整えるための役割分担業務分掌として案まではできているが、実用まで進んでいない。インシデントレポートについての実態調査はできており、傾向についておおまかな把握はしているため、オリエンテーション時に説明や指導はできている。しかしながら、改善につながる分析と実践ができていないことが課題である。</p>
4.教授学習 評価過程	3.68	<p>「学習の手引き」のシラバス欄に授業内容等を明示し、教育課程との一貫性を確保している。授業内容に応じて授業形態を工夫し教育効果を上げている。授業内容や学生の特徴に合わせ、アクティブラーニングを取り入れるなど、積極的に実践している。講義担当一覧及び実習施設の担当教員一覧にて、各教員の担当を示し、教員間の協力体制を明確にし、教員間で協力できる体制を整えている。今年度は、関連部署と連携を図り新型コロナウイルス感染症対策を取ることができた。</p> <p>全教員が授業評価を実施でき、今年度は非常勤講師の授業評価も加わり、データ集計されている。今後はさらに評価内容を分析し、改善に役立てる必要がある。シラバスに成績評価として明示することで多様な評価に取り組めたが、評価方法の取り入れが改善しているかどうかの分析に至っていない。今後は状況のデータ化、分析、対策、評価のPDCAサイクルを回していきながらシステム構築につなげる必要がある。</p>	3.63	<p>シラバスを中心に、授業の形態や展開過程を明示し、学生にもわかるよう教員間で協力しながら指導体制を構築している。授業の形態も内容に応じて講義、演習、実験、実習に分け、必要に応じてアクティブラーニングを取り入れている。これによって、一定の教育効果を上げていると評価できる。なお、その効果を検証できるデータを整理するよう期待する。</p> <p>授業評価を専任教員だけでなく非常勤教員の授業に対しても実施したことにより、教育のPDCAがうまく回るように回った点は大きな前進と言える。単位認定についても、シラバスに基づいて公平な評価がなされており、教育の質を担保する取り組みが機能していると言える。なお、これらの点を十分に検証できるデータを整理すること、その結果改善ACTIONのサイクルを回すことができる仕組みを構築することが望まれる。</p>

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
4.教授学習 評価過程		<p>また、シラバスに示した評価基準と方法を用いて評価することで公平性を保っている。シラバスの提示や指導、シラバスが学習の動機付けと支援になるよう、学校全体が統一して行っている。2020年度当校の退学率は3%であり、昨年度の4%と比較しても減少しており、退学率の低減が図れている。</p>		<p>シラバスが有効に活用され、学生の退学率も低く、本校の取り組みが学習への動機づけや支援につながっていると言える。 2022年度にカリキュラム調整があるとのことで、これにも期待したい。</p>
5.経営・管理 過程	3.98	<p>設置者が学校設立時に開校の趣旨を明記しており、管理者と設置者の考えには一貫性があり、設置者の意思を尊重した運営を行っている。意思決定は各委員会ですべての事項を協議し、学校運営に関わる重要事項は学校運営会議にて審議している。学校運営会議には教職員が参加して審議できる様に整備している。学校は指定規則に求められる人員配置、設備、図書、規程等を基準に学校運営を行っている。</p> <p>財務情報について決算を行い、財務情報をホームページにて公開している。教職員へどのような財政基盤によって成り立っているかを折に触れ、予算・決算等を説明している。学習・教育環境の整備を心がけており、業務の効率化の為、セキュリティを考慮した学内ネットワークを構築している。火災及び自然災害に対する体制については防災マニュアルを整備し、本年度は安否確認システムでの通知訓練を実施した。社会人のニーズに沿って専門実践教育訓練給付可能な体制をとっている。</p> <p>入学後に学修継続ができる支援体制として教員によるアドバイザー制度を導入し、学習面、生活上の相談・支援を行っている。また、1年次から、段階を踏んで国家試験対策を実施している。学生の経済的支援体制として、奨学金や給付金制度を用意している。入学式・卒業式などの年間行事をホームページ等から情報発信を行い、保護者への情報提供も必要に応じて行っている。将来構想をもとに、長期計画、短期計画、年間計画を立案しており、自己点検・自己評価委員会にて自己評価を行い、実施後は学校運営会議に報告、学校運営にフィードバックするようにしている。ホームページにて自己点検・自己評価を公開している。</p>	4.00	<p>学校の設立からの思いや関連した項目明確にされており整合性もあり年数も重ねて盤石なものになっている。</p> <p>どの様なプロセスを通じて意思決定されていることが明確でありよくできている。ホームページにて公開もできており財務情報は各手法で明確にされている。</p> <p>学習・教育環境の整備が整っており明確にされているうにセキュリティを意識した施設計画や安否確認の実践を伴う防災マニュアルも整備できおり益々充実した教育現場になっている。</p> <p>教員によるアドバイザー制度は引き続き行われている。また、学生への経済的側面に対するの支援体制も、各種奨学金への対応や専門実践教育訓練給付金の認可を受けているなど、学生に対するサポートは継続して実施されていると判断する。</p> <p>コロナ禍において、従来内容での学校行事の遂行や、高校訪問等での本学校の広報活動への制約が生じている。その中で、オンラインでの広報活動や、規模を縮小したオープンキャンパスを実施するなど、大きな停滞なく情報提供を行っていると判断する。</p> <p>将来構想は明確に立案されており、自己点検・自己評価委員会において適切に評価され、学校関係者評価委員会での自己評価の点検においても適切に実施されていると判断する。</p> <p>自己点検・自己評価は、例年に引き続き規約に基づいて実施されており、評価は妥当と判断する。自己点検・自己評価内容は、本校ホームページ上に2019年度から掲載され公開されている。昨年度や一昨年度からの比較や変遷が可視化されやすくなった。</p>

評価項目	自己評価 評点	自己評価(概要・今後の課題)	学校 関係者 評点	学校関係者評価・意見
6.入学・広報活動	4.00	<p>入学試験実施規程に基づいて入学者選抜を行っている。入学者状況については入学試験委員会で検証して次年度の入学者選抜方法につなげている。</p> <p>毎年、広報計画をたてて広報活動を展開して入学生数の確保を心がけている。広報活動にはパンフレットや学生募集要項などを使って行っている。入学希望者には、オープンキャンパスで学校紹介、受験ガイドンス、看護技術体験、個別相談などの時間を設けて説明を行っている。本年度のパンフレットから卒業生の就職状況・進学先の情報も掲載している。</p>	4.00	<p>入試については、適切に実施されていると判断できる。また入試広報についても、活発に活動されていると判断できる。</p>
7.卒業・就業・進学	3.54	<p>卒業時の到達状況調査は卒業学年を対象に実施しており、今年度も4期生の集計は終了した。今後は1～4期生の分析を行うことで課題を明確にし、授業計画に反映させていく。</p> <p>今年度は、コロナ禍の影響で同窓会の開催や就職先の全訪問ができなかった。その中でも、同窓会役員とは連絡を取り、継続した関わりを行った。また、就職先への訪問も状況を見ながら可能な範囲で実施し、来年度に向けて礎を築くことができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着き次第、課題である卒業生の活動状況や就職先との連携を推し進めていく。</p>	3.54	<p>新型コロナウイルス感染症拡大状況の中でも継続して活動されていることは評価できる。2021年度においても同様の状況が続く可能性が高いので、卒業生等との新たな連携方法を検討されることも必要かと考える。</p>
8.地域社会活動	3.71	<p>学校の周辺地域の情報は地元の自治会を通して得ているが、行事は概ね土日開催であるため参加できていない。これまでは学校の行事に地元住民の方の参加はあったが、今年度はコロナ禍であり学園祭等も中止となり、地元地域との交流ができなかった。高知県内の実習病院との交流や教職員の高校への出前講義、高知県下の行事へのボランティア参加等も非常に少なかった。しかし、本年度は、職業実践専門課程であることの制度や教育訓練給付金制度を活用する学生が多数あり、ホームページや広報活動等を通して地域社会への知名度が上がってくると考えられる。</p>	3.71	<p>校外の活動については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で計画どおりに実施できなかったものと思われる。評価を下げるのが妥当か否か逡巡するところであるが、ボランティア活動については「実施できなかった」という事実についての評価とした。今後はオンラインなど、通常とは異なる形式で何か検討できることがあれば良いかと考える。</p>
9.研究	3.75	<p>前年度と同様の教員研修や取り組む研究計画を立てたが、コロナ禍であり教育活動への比重が大きく研究活動に占める時間数が少なくなった。例年と異なり本年は県外への研修や学会参加が禁止されたため直接参加は少なかったが、近森学術集会には参加し、又、近森学術学会誌には2題投稿した。</p>	3.75	<p>コロナ禍の中で、研究の時間とくに発表の機会が少なくなったことは否めない。しかし研究への支援は一定程度行われ、またオンラインを活用しての研究発表や学術誌への投稿も引き続き行われている。学生教育、職業教育に関わるデータも蓄積されているようなので、そうした面の研究も今後は期待される。</p>

2021年度 近森病院附属看護学校
自己評価及び学校関係者評価 各項目平均

—●— 自己評価 —●— 学校関係者評価

